

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 米澤 かおり

本研究は新生児を対象に、生後3か月間の皮膚トラブル発症と生後3か月時点での皮膚バリア機能への、産科退院後から生後3か月までの継続した保湿ケアの効果を検討したものである。具体的には、保湿ケア群（沐浴を2日に1回行い保湿剤を毎日塗布する）と通常ケア群（沐浴を毎日行う）の2群比較を、生後4日目までにリクルートした新生児に対して無作為化比較試験を行い明らかにした。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 保湿ケア群は、通常ケア群よりも出生後1か月間のオムツ皮膚炎の発症割合が低かった。
2. 保湿ケア群は、通常ケア群よりも生後1か月から3か月の2か月間の体の皮膚トラブル発症割合が低い傾向がみられた。
3. 保湿ケア群は、通常ケア群よりも生後3か月時点での顔の経皮水分蒸散量が低く、顔と体の角質層水分量が高かった。

以上、本論文では、日本におけるアジア人新生児を対象として「沐浴の回数を2日に1回とし、全身に保湿剤を毎日塗布する」という保湿ケアが、現在日本で広く行われている毎日沐浴する通常ケアと比較して、生後3か月間のおむつ皮膚炎発症割合が低く、体の皮膚トラブル発症割合が低い傾向にあり、生後3か月時点での顔の経皮水分蒸散量が低く、顔と体の角質層水分量が高いことを明らかにした。

本結果は、新生児・乳児期の日常のスキンケアによって、生後3か月間のオムツ皮膚炎発症割合が低くなり、生後3か月時点での皮膚バリア機能を高くなることを示唆する重要な知見であった。本研究は、これまでその指導の根拠が明確ではなかった新生児のスキンケアについて、エビデンスに基づいた指導を行うために重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。